

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校)

都道府県名	神奈川県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	平塚市立勝原小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	4	3	3	4	1	21	32
児童数	117	108	124	109	106	120	2	686	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「確かな学力の向上」をめざして -算数科の少人数指導をとおして- ・基礎的、基本的な内容についての実践研究 ・算数科における授業改善の工夫 ①発展的な学習や補充的な学習など、個に応じた指導のための教材の開発 ②個に応じた指導のための指導方法、指導体制の工夫改善 ③児童の学力の評価を生かした指導の改善</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年 算数 児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。</p>

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>個に応じた指導のための授業改善の工夫 学力の評価及び指導への生かし方の工夫 学力調査の実施と結果分析 ・授業体制作り、学力観の見直し、授業研究会、研究推進校視察等。</p>
--------	--

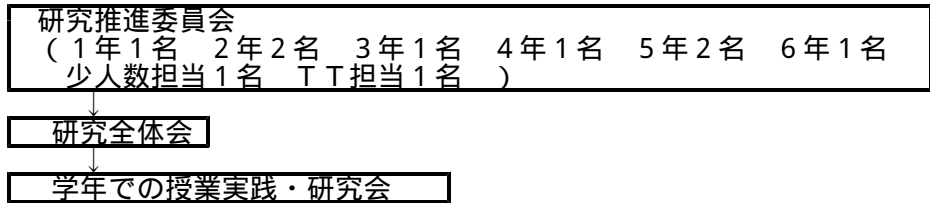
平成15年度	<p>個に応じた指導のための授業改善の工夫 個に応じたきめ細かな指導を行う上で、補充的な学習や発展的な学習など、一人ひとりの習熟に応じた適切な教材を開発する。 学力の評価及び指導への生かし方の工夫 基礎・基本の確実な定着や、自ら学び、考える力の育成を図るため、少人数授業や習熟度別学習などの、個に応じた指導を実践する。 学力調査の実施と結果分析 児童一人ひとりのよさや可能性を積極的に評価し、豊かな自己表現ができるような個に応じた指導と評価についての研究をする。 ・授業改善ーわかる授業・楽しい授業をめざして</p>
--------	---

平成16年	<p>個に応じた指導のための授業改善の工夫 学力の評価及び指導への生かし方の工夫</p>
-------	---

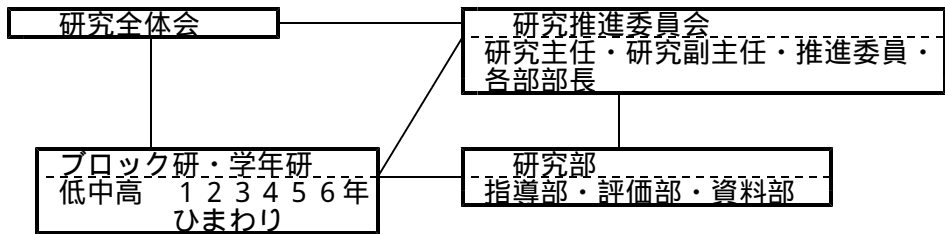
度	学力調査の実施と結果分析 研究成果の普及（学校内 他教科への普及）(地域への普及)
---	--

(3) 研究推進体制

平成14年度



平成15年度



- ・研究の中心は学年での「授業の工夫・改善」であり、教師が授業に集中して取り組めるような体制を作った。
- ・本年度途中から、研究主任・研究副主任・推進委員の3名をプチ推進委員会として、話し合い、連絡調整等を行った。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

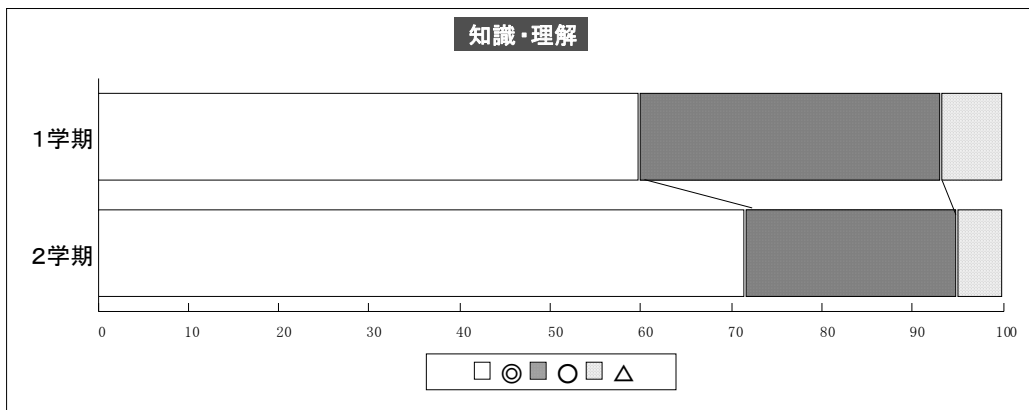
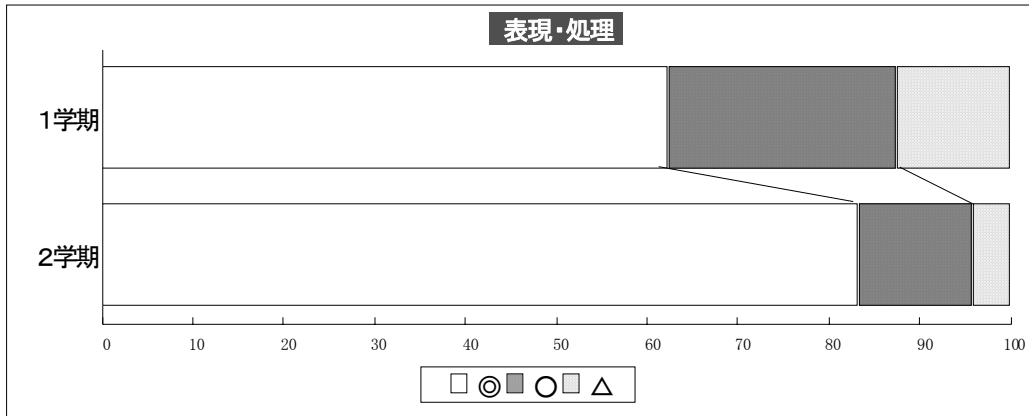
1. 研究の成果

少人数担当が加配されている学年では、テストの採点基準を明確にし、少人数担当が一括して採点、データについては、各担任と協力して保存している。

6年業者テスト観点別正答率

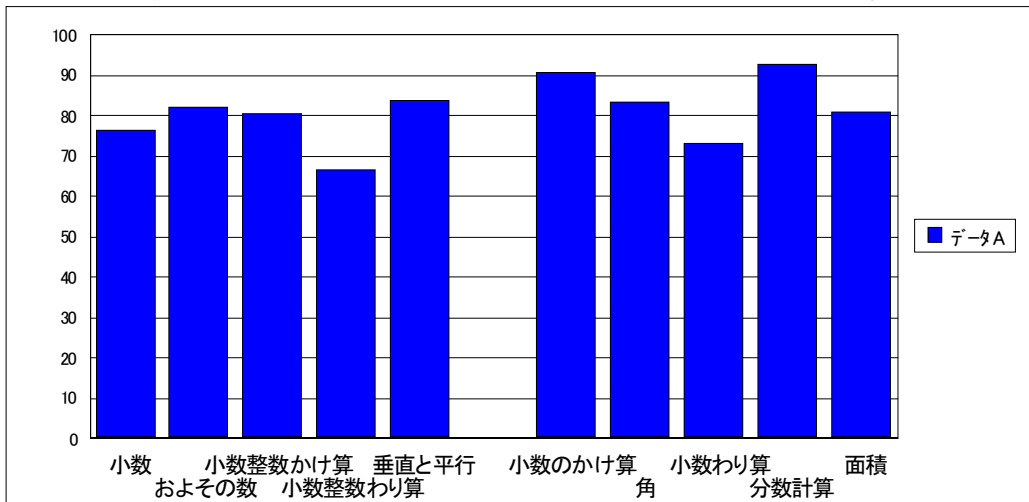
下記の資料は、1, 2学期の6年のテストの観点別評価の正答である。正答率80%以上を◎, 50%以下を△とした。1, 2学期を比較すると、2学期には、の児童が確実に増えている。特に、表現・処理能力の正答率の上昇が著しい。3学期以降と来年度は、全学年において「数学的な考え方」「知識・技能」についても、常に80%程度の正答率を目指したい。

学期	◎ 80%以上	△ 50%以下
1学期	約55%	約45%
2学期	約70%	約30%



5年業者テスト平均点

5年生は昨年度から、算数科の授業について、少人数指導を実施している。各テストにおいて、80点前後の安定した平均点を保っている。しかし、全体を見渡して見ると、計算領域の「わり算」の部分がやや低いことが分かる。来年度に向



けての課題となる。

2. 今後の課題

- ・学力の評価及び指導への生かし方の工夫
(「評価」についての共通理解、指導法の改善、授業の改善につながる評価を学校全体で進めていく。)
(2学期制施行とあわせて、具体的にどのような評価が適切か、提案していく。)
- ・個に応じた指導のための授業改善の工夫
授業の本質、ポイントの明確化
(単元における指導内容の徹底分析、指導内容の系統性の確認。)
- ・学力考査の実施と分析
(継続的評価により研究成果を確認する。)
- ・研究の成果を記録として残し、地域へ普及していく。(研究発表会実施)

学力等把握のための学校としての取組

- ・学年末に、学力考査を実施している。
(児童の学力調査のため。指導書のまとめテストを使用。3月に各クラスで実施)
- ・業者テストの徹底分析(現在行っている分析を学校全体で進めて行く。目標を定め、それに近づくべく授業改善を目指す。)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・10月16日 中地区「指導方法の改善」研修会にて、研究の概要を発表、授業公開を行った。(中地区88校の担当教員が参加)
- ・11月10日茨城県猿島町から本校へ研究視察。6名来校。(教育委員会教育長、教育指導員、校長4名)研究の概要を発表。
- ・11月12日 本校にて平塚市小学校教育研究会算数部会開催。6年の授業を提案。その後、授業についての研究会を行った。
- ・平塚市小学校教育研究会算数部会にて、レポートによる実践報告。(1月「6年生 分数のかけ算 ジャンプコースの発展的課題について」)
- ・学期に2回程度、授業風景を知らせる「算数便り」を発行。地域に配布。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無